

宮崎神宮

# 養正

ようせい

# 心

ようせい  
「養正」とは

神日本磐余彦天皇が第一代の天皇に即位される際のご聖勅「上ハ則チ乾靈ノ國ヲ授ケタマヒシ徳ニ答へ、下ハ則チ皇孫ノ正ヲ養ヒタマヒシ心ヲ弘メム」からいただいた由緒ある名称です。

新作能『神武』奉納

# 年頭のごあいさつ

宮司 本部 雅裕

令和六年の年始にあたり、竹の園生のお栄えと、氏子崇敬者の皆さまの益々のご健勝をご神前より乞祈奉ります。

昨年恒例の祭典は、十月二十六日の例祭を始めすべてを滞ることなく斎行することができました。また、例祭の奉納行事として能「神武」をご披露し、約五〇〇名の方々に拝観いただきました。これも偏らずご奉賛の賜物でございます。心から厚く感謝申し上げます。

さて昨年十一月二十三日は、幣殿前の東西の齋庭に庭積みの神饌を並べて新嘗祭を斎行いたしました。これは宮崎神宮伝統の行事で、氏子や氏子青年会、養正講社、さらに宮崎市内の大手の青果市場や県内の篤農家、お菓子や焼酎メーカーなどから多くの品々が奉獻されました。

秋の稔りを大神様に捧げてお召しあがりいただき、豊作を感謝するといふ新嘗祭本来の意味を持つ、大切な奉獻行事です。お祭りのあとは、神さまの「おさがり」として宮崎市内の老人や子どもたちの福祉施設にお分かち致しました。

ところが戦後、残念ながら「新嘗祭」のその日は「勤労感謝の日」となり、「労働、勤労を貴ぶ日」になつてしまひました。

私たちは今こそ、日本民族が弥生時代以降、稲作とともに斎行してきた「祈年祭、新嘗祭」を、明治祭や天長祭とともに本来の祭日に戻し、その意義を弘めていく努力が必要であります。

宮崎神宮は日本の伝統を、日本の精神を、日々の祭祀とおして実践、継承してまいります。

どうぞ今年も、皆さまお揃ひでご参拝ください。



新嘗祭庭積神饌

新嘗祭の歌  
民やすかれと 二月の  
祈年祭 験あり  
千町の小田に うち靡く  
垂穂の稲の 美し稲  
御饌に作りて たてまつる  
新嘗祭 尊しや



## 新年のごあいさつ

神武養正講社 講長 西尾武彦



新年あけましておめでとございます。ようやくコロナウイルス感染症も、昨年五月から長期間の行動規制等が解除となりました。これにより今まで自粛されていた行事が一斉に行われるようになりましたが、中には四年ぶりの開催ということで、段取りの失念等もあり、自粛期間の長さを感じた次第です。

当講社においても、昨年は令和元年以来の皇居勤勞奉仕団を執り行うことが出来ました。しかしながら、コロナウイルスが終息には至っていない中ですので、受入人数が最大十五団体二百名程より三団体六十名程に縮小、この他にも食事時以外のマスク着用、使用後の椅子やテーブルの消毒など徹底した感染予防を要求されました。

また、日程も皇居三日、赤坂御用地一日の計四日間より三日間へ短縮、奉仕場所についても、改装工事中であった赤坂御用地での奉仕が叶いませんでした。初参加の方には、美しい庭園が見学出来ずに残念でしたが、来年は奉仕できることを期待したいと思います。

さらに、御会釈時の万歳三唱も中止となりました。発声の先導は他団体と協議の上決定されるもので、参加が三団体と少なかった今回は選ばれる確率が高かった為、我こそはと大いに期待していたので残念でなりません。しかしながら、期間中天候に恵まれたことは幸いでした。初参加の団員の中には、今回の参加を約束された方もいらっしやいましたので、十分に楽しんでいただいたものと感じています。私も四度務めた団長の重責から解放され、一団員としてこれまでより気楽に参加したいと思えます。

その他講社活動についても、祭典後の直会が再開されるなど、皆様のお話をお聞きする機会が増えましたので、ご要望等があればお気軽にお申し付けいただけると有り難いです。結びに、本年が皆様にとりまして幸多き年となりますことをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶と致します。本年もどうぞよろしくお願い致します。



西尾武彦団長以下17名の参加でした。

## 職 場 体 験

### ◆ 神武の杜で奉仕しました ◆

あなたは職場体験学習を通し、誠心誠意神明奉仕に勤められました。ここにその活動を証します。

日南学園高校二年 仁田脇研登  
(令和五年七月二十五日)

二十七日

大宮中学校二年 伊藤 愛華

山下 蒼太

児玉 楓

(令和五年九月十二日～十四日)

不慣れなことが多かったと思ひますが、一生懸命に取り組まれる姿が印象的でした。

中学生は白衣、袴に着替えて御守の授与もしていただき、参拝者から励ましや優しい言葉をいただいたことが嬉しかったやうです。

せっかくなのでいただいた縁ですので、お参りされた際には職員にお声がけいただけると幸甚に存じます。

今回の体験を糧として、今後の学校生活等がより充実したものにりますやうお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

神武天皇御東遷の足跡を辿る

# 新作能『神武』

主催 宮崎神宮

協力 (一社) 日本芸術文化戦略機構 (JACSO)



辰巳満次郎 (神武)

令和五年十月一日、例祭奉納行事としてシテ方宝生流・辰巳満次郎(重要無形文化財総合指定保持)主演による新作能『神武』の公演を行いました。

導入部として辰巳和磨の現代語による能物語朗読から幕が開け、その流れで能が始まり、辰巳満次郎が宮人と神武を演じました。

本作は令和四年二月十一日に明治神宮会館で開催された「建国記念の日奉祝中央式典」(主催:日本の建国を祝う会)にて初披露され、令和

五年二月四日には神武天皇ご即位の地に鎮座する榎原神宮にて紀元祭奉納行事として公演されました。

三回目となる公演は、神武天皇ご東遷前の故郷、神武天皇皇居宮崎宮と伝はる当宮にて、約五百名がご東遷のご聖業を偲び奉りながら観覧されました。



◆ ◆ ◆  
神武天皇の足跡は、北原白秋作詩・信時潔作曲の交声曲「海道東征」などで伝はりますが、天照大御神が登場する「絵馬」などがある能では扱

はれておませんでした。

そこで神社本庁は、「洋楽ともいへる交声曲はあるのだから、日本の古典音楽ともいへる能でも神武天皇があつてほしい。神社は昔から、芸術の奉納の場でもありますから、創作の取り持ちをしゃやう」と考へ、辰巳満次郎氏に相談しました。



辰巳和磨 (朗読)

すでに「マクベス」や「オセロ」など約十曲の新作能を手がけてゐた辰巳氏は、「大きなテーマですから内心では躊躇しましたが、最近には神武東征を知らない人も多い。東征は建国の日の起源ですから、これを文化として伝えることは大事なことです」と考へ快諾しました。

## 主な主演者プロフィール



辰巳 和磨 (能物語)

シテ方宝生流能楽師。辰巳満次郎の長男。1994年入門。19代宗家宝生英照、20代宗家宝生和英に師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科能楽宝生流専攻卒業後、和英宗家のもと内弟子となる。2019年宗家の御許しを得て独立。初舞台「鞍馬天狗」花見(1995)。初シテ「殺生石」(2014)。その他海外公演にも出演。NHK総合「歴史秘話ヒストリア」

「そして能は生まれた 世阿弥 時代を超える戦略」世阿弥役(2019)。(公社)能楽協会会員。(公社)宝生会正会員。



辰巳 満次郎 (宮人・神武)

シテ方宝生流能楽師。父及び18世宗家故宝生英雄に師事。全国で公演・実技指導・普及活動を行ふ。国内の神社仏閣ほか、エジプトフィンクス前、エルサレム、パチカンなどの海外聖地にも奉納公演する。また、伝統的な手法による新作能の演出・主演多数。

(公社)宝生会理事。文化庁文化交流使。重要無形文化財総合指定保持。興福寺新御能保存会理事。(一社)日本芸術文化戦略機構名誉理事長。

辰巳氏は壮大な東征の中で、熊野上陸から吉野へと進む旅路に焦点を当てました。天皇が八咫鳥に導かれて北上する東征のクライマックスでもあります。



中央：辰巳満次郎（宮人）

完成した「神武」では、熊野詣での古道で迷った旅人（ワキ）の前に宮人（前シテ）が現れ、「この苦難は神が授けたものだ」と言って消えます。やがて八咫鳥（アイ）が姿を見せ、神武天皇の供をした時の様子を語って那智の滝に導きます。ここで神武の神霊（後シテ）が出現し、九州を出発して兄を失ひながらも大和・橿原まで東征し、即位した物語を語り、舞ひます。

「おのれの道を知り、乗り越えることが生きる道なのだ。我もそれを知り、世を治めた。祈り、努力し、信念を離すな」

辰巳氏は、後シテが最後に語る詞章に二六八三年前に建国した神武天皇の偉大さを知り、自分に重ねて考へてほしいといふ意図を込められました。

（産経新聞Web版）

令和四年二月二日参照

当日配布パンフレット表紙



左：野村万禄（八咫鳥） 右：澤田宏司（旅人）



澤田 宏司（旅人）

1969年生、三重県出身。19世宗家宝生英照、20代宗家宝生和英に師事。1998年「敦盛」ツレで初舞台を踏む。2005年「忠信」にて初シテを勤め、これまでに「石橋」「道成寺」「乱」を抜く。現在、自身の同門会「澤風会」を主宰する他、出身校の京大能楽部で指導を行ひ、学生能の普及活動に努めてゐる。



野村 万禄（八咫鳥）

1966年生。野村萬の甥で野村萬に師事。2000年野村万禄を襲名する。萬狂言九州支部代表。数多くの役職を勤める傍ら稽古場解説や学校教育と連携した狂言の指導など、普及と発展に努めてゐる。福岡県文化奨励部門受賞（2010）。筑紫女学園大学・福岡教育大学講師。能楽協会理事・九州支部長。重要無形文化財保持者総合認定。



もってこーい  
もってこーい

## 諏訪神事 「長崎くんち」



例大祭は大波止御旅所に奉安した神輿前にて執り行はれます。神輿は写真右より森崎神社、諏訪神社、住吉神社。

鎮西大社諏訪神社の秋の大祭「長崎くんち」（国指定重要無形民俗文化財）は、日本三大祭りの一つとされておます。

疫禍により令和元年を最後に中止を余儀なくされてをりましたが、令和五年は四年振りに執り行はれ、十月八日の最重儀とされる例大祭に当宮本部宮司が献幣使として参向しました。

祭典は神社役員以下関係者ご参列のもと厳粛に行はれ、天皇陛下の安寧と国家の安泰、さらに長崎の発展と氏子の幸福が祈りされました。

ところで、くんちの花形である豪華絢爛で国際色豊かな奉納踊は有名ですが、例大祭同様に重要な神事が御神幸です。

諏訪三社の神輿を神輿守町といはれる氏子町の約百名の若者が担ぎ、諏訪神社と大波止御旅所間をご巡幸致します。御神幸中神輿は、静々と歩くのがしきたりとなって

をりますが、各所で神輿を担ぎあげ疾走し神々の御神霊の再生を願ふ「もり込み」といふ荒行が披露されると、沿道は大いに盛り上がりました。

なほ、神輿守町は六年ごとにししか巡ってきません。したがってこの日のために帰省して奉仕することは、町を離れてみた若者たちにとって大きな喜びとすることでせう。



「長崎くんち」の日程は、毎年十月七日から三日間とされておますが、関連祭典は六月一日の小屋入りから始まります。十月も一日の事始神事から、十三日の直会神事に至るまで多くの祭典が執り行はれておます。

この各種祭典を通して神々と氏子、人と人、家族の絆を育む姿こそが、約三九〇年に亘り受け継がれてきた「長崎くんち」の神髄であり、宮崎神宮としても改めて見つけ直すことであると感じた次第であります。今後地域文化の核として、町を挙げて益々盛大に執り行はれますことをご祈念申し上げます。

**戌**の日のお参り

多産でお産が軽いといはれる犬にあやかり、妊娠5ヶ月頃に安産祈願を承ります。

1月 11日・23日	4月 4日・16日・28日	7月 9日・21日	10月 1日・13日・25日
2月 4日・16日・28日	5月 10日・22日	8月 2日・14日・26日	11月 6日・18日・30日
3月 11日・23日	6月 3日・15日・27日	9月 7日・19日	12月 12日・24日

～ご家族でお祝ひするとともに神社にお参りをして、子供の健やかな成長をお祈りませう。～


<p><b>一</b> 歳の誕生日 初誕生 初めての誕生日 祝へやいーぎー♪</p>	<p><b>鯉</b> のぼり 端午の節句 男の子 五月五日 屋根よりたーかーい♪</p>	<p><b>雛</b> にんぎやう 桃の節句 女の子 三月三日 今日は楽しい雛祭り♪</p>	<p><b>初</b> めてのお参り 初宮詣 男の子生後32日目前後 女の子生後33日目前後</p>	<p><b>親</b> の思ひ 命名 当宮では名付け判断や 命名書をお書きします。</p>
<p><b>大</b> 人の仲間入り 成人の日 令和6年1月8日 ※本来は1月15日</p>	<p><b>学</b> 門の勧め 学業成就・合格祈願 入学や卒業、就職等</p>	<p><b>帯</b> 解きの祝 おびとき 7歳女児 数へ 平成30年生 満 平成29年生</p>	<p><b>袴</b> 着の祝 はかまぎ 5歳男児 数へ 令和2年生 満 平成31年生 令和元年生</p>	<p><b>髪</b> 置きの祝 かみおき 3歳男女 数へ 令和4年生 満 令和3年生</p>

～節目の年にお祓ひを受けませう。(年齢は数へ年です)～

**命** の営みに感謝

還暦61歳	昭和39年生	誕生年(甲辰)の曆に還ります
古希70歳	昭和30年生	人生七十古代希なり
喜寿77歳	昭和23年生	喜を喜と書くことから
傘寿80歳	昭和20年生	傘を傘と書くことから
半寿81歳	昭和19年生	半をくずすと八十一となることから
米寿88歳	昭和12年生	米をくずすと八十八となることから
卒寿90歳	昭和10年生	卒を卒と書くことから
白寿99歳	大正15年生	百から一を引くと白となることから
百寿100歳	昭和元年生	
	大正14年生	百年が一紀なので紀寿ともいふ

この他にも家内安全、商売繁昌、結婚式、車祓、交通安全等も承ります。



**厄** 年は人生の変はり目

厄年表	
男 性	
前厄24歳	平成13年生
大厄25歳	平成12年生
後厄26歳	平成11年生
前厄41歳	昭和59年生
大厄42歳	昭和58年生
後厄43歳	昭和57年生
前厄60歳	昭和40年生
大厄61歳	昭和39年生
後厄62歳	昭和38年生
女 性	
前厄18歳	平成19年生
大厄19歳	平成18年生
後厄20歳	平成17年生
前厄32歳	平成5年生
大厄33歳	平成4年生
後厄34歳	平成3年生
前厄36歳	昭和6年生
大厄37歳	昭和5年生
後厄38歳	昭和4年生



ご社殿前のキンモクセイ

毎年齋庭いっぱい金木犀の薫りが漂い出すと、例祭、御神幸祭の季節到来を感じるものです。

昭和14年の写真にて既にその存在が確認されますが、その後枯れかかってゐた為、みやざき植木市振興会の皆さまによりまして、昭和62年3月3日(右側)、平成10年3月2日(左側)に植ゑ替へられ、現在に至ります。

お参りの際には、是非花の香りもお楽しみください。

◆ 祭典・奉納行事

- 七月 十日 除蝗祈願祭
- 七月 二十四日 撰社夏祭 子供神輿渡御(二十五日まで)
- 八月 三日 末社夏祭本祭 子供神輿渡(四日まで)
- 八月 二十五日 風鎮祭
- 九月 十五日 敬老祭
- 九月 二十三日 秋季皇霊祭遙拝 秋分祭併風鎮満願祭
- 十月 五日 御東遷記念祭
- 十月 九日 御神田拔穂祭
- 十月 十四日 御衣祭(市呉服商有志協力 御衣司 宮下繁一郎氏)
- 十月 十五日 第五十五回例祭奉納剣道大会 於藤棚前広場
- 十月 十七日 神嘗祭遙拝 神嘗奉祝祭
- 十月 二十三日 自動車祓殿御鎮座記念祭
- 十月 二十五日 前夜祭
- 十月 二十六日 例祭 ※献幣使 鵜戸神宮宮司 黒岩昭彦氏

十月二十七日 撰社例祭

十月二十七日 例祭奉納四半の大会 於藤棚前広場

十月二十八日 御神幸祭第一日 本宮↓瀬頭御旅所

十月二十九日 御神幸祭第二日 瀬頭御旅所↓本宮

※沿道観衆約八万人

十月 三十日 陳謝祭

十一月 三日 明治祭 百手式奉納(九州菱友会宮崎市支部)

十一月 十五日 七五三詣祭

十一月二十三日 新嘗祭

◆ 庭積神饌奉献者(順不同 敬称略)

- ・宮崎神宮御神田初穂米・宮崎県産米改良協会(県内七地区)
- ・J A 宮崎中央宮崎支店青年部・花ヶ島農産組合
- ・花ヶ島第一農産組合・下北方農産組合・宮崎青果㈱
- ・宮崎中央青果㈱・宮崎県茶商組合連合会・京屋酒造(有)
- ・霧島酒造(株)・明石酒造株(株)・櫻乃峰酒造(有)・青空エール
- ・宮崎県神道青年会御神田初穂米(日南市南郷町榎原)
- ・氏子青年会十支部六十二名・福山 三義・本部 定俊
- ・神武養正講社九支部三十四名・高原ミネラル(株)・ツルヤ(株)
- ・神武さまのおすそわけ認定商品



御菓子司上野  
おかし屋さん happy  
(有)お菓子の浩屋  
リュウヌ・ドウ・プランタン  
B i c h o c o l a t

十一月二十四日 撰社新嘗祭

十二月二十五日 本殿清掃奉告祭 大正天皇祭遙拝

十二月三十一日 古神符焼納祭 大祓 除夜祭 撰社末末祭

毎月 三日 月次祭(十一月を除く)

毎月 十五日 講社月次祭



◆正式参拝・団体祈願等◆

【六月】 二日法華宗本門流大本山光長寺派慈恩教会正式参拝▼三日日章学園中学校女子バスケットボール部必勝祈願▼十三日(株)電通国際情報サービスプロジェクト成功祈願▼十九日山口洋氏正式参拝▼二十一日宮崎神宮献詠短歌会献詠祭▼二十五日小池愛子氏正式参拝▼二十六日宮崎県警察機動隊柔道部・剣道部必勝祈願▼二十七日九州地区女子神職会正式参拝※研修会

【七月】 一日第一建設(株)安全祈願▼二日宮崎日本大学中学校サッカー部必勝祈願▼三日九州電力(株)宮崎営業所安全祈願／九州電力送配電(株)宮崎支社安全祈願▼四日九州電力送配電(株)宮崎配電事業所・(株)九電送配サービスセンター安全祈願▼六日サムコテクシヴ(株)宮崎工場安全祈願▼十日宮崎県神社庁直階・権正階検定講習会開講奉告祭▼三十日いまさき歯科医院社内安全祈願

【八月】 一日(株)宮崎太陽銀行社運隆昌祈願▼二日(株)はまゆう安全祈願▼十一日フィット速算そろばん教室上達祈願▼二十六日みのり保育園開園五十周年奉告祭▼二十九日宮崎県神社庁正式参拝※神社庁総会

【九月】 三日宮崎県教育関係神職協議会正式参拝※総会▼五日ひなた鍼灸整骨院社運隆昌祈願▼九日宮崎青年会議所正式参拝▼十一日氷川神社敬神婦人会正式参拝／全国敬神婦人連合会正式参拝／伊弉諾神宮敬神婦人会正式参拝▼十二日北海道神社庁長芦原高穂氏正式参拝▼

大社敬神婦人会正式参拝／春日敬神婦人会正式参拝／照國神社敬神婦人会正式参拝／静岡浅間神社敬神婦人会正式参拝／宮城県敬神婦人連合会正式参拝／笠間稻荷神社敬神婦人会正式参拝▼十三日長崎県敬神婦人連合会正式参拝／山口県敬神婦人連合会正式参拝／神社本庁統理鷹司尚武氏同夫人・神宮大宮司久邇朝尊氏正式参拝／広島県敬神婦人会正式参拝／



神社本庁統理鷹司尚武氏・神宮大宮司久邇朝尊氏正式参拝

三重県敬神婦人連合会正式参拝／佐賀県敬神婦人会正式参拝／國學院大學院友会正式参拝▼十四日樞原神宮敬神婦人会正式参拝／神奈川県敬神婦人連合会正式参拝▼十六日小戸妙見神社正式参拝▼二十三日山崎(株)創業七十年奉告祭

【十月】 二日(株)宮崎太陽銀行社運隆昌祈願▼七日宮崎神宮大祭実行委員会令和五年度「ミス・

シャンシャン馬」安全祈願▼十日宮崎商工会議所「神武さまのおすそわけ」奉納奉告祭▼十二日阪元組「ベイビーわるきゅーれ3」撮影安全祈願▼十七日松浦組(株)正式参拝※灯笼奉納▼十九日Inspire(株)音のはびねず設立奉告祭▼二十日宮崎県警察機動隊剣道部必勝祈願▼二十四日(株)テックインフラスナー安全祈願／諏訪神社宮司吉村政徳氏正式参拝▼二十五日ミヤタメ商事(株)社運隆昌祈願▼二十七日鹿児島県神社庁大島支部正式参拝▼二十八日宮崎青年会議所正式参拝

【十一月】 二日(株)大武・ルート工業商売繁盛祈願▼十日(一財)宮崎県内水面振興センター安全祈願▼二十二日福島高等学校四十六年卒業科古稀同窓会神恩感謝▼二十九日(株)ラック事業繁栄祈願

◆神武さまのおすそわけ認定商品◆

第三回を迎へた本年度は、ピーシヨコラ「カオモナカ 心花(こころはな)」(左写真上)と、おかし屋さんハピハピ「さちかさね」、「さちわたし」(左写真下)が認定されました。



店舗や商品の詳細等は宮崎商工会議所ホームページをご覧ください。

# ” 献詠短歌 ”

「宮崎神宮献詠短歌会」は、昭和十六年三月に発足しました。爾来八十年の長きに亘り、三十一文字に思ひを込めて献歌してきました。

## ■ 献詠募集 選者 小池洋子

ハガキに楷書で丁寧に一首と氏名、住所、電話番号を明記の上、宮崎神宮社務所までお送りください。

※毎月五日締切

※選考結果は毎月末に応募者宛にお送り致します。

## ■ 令和六年兼題

本年の献詠兼題を左記の通り定めましたので、お知らせ致します。毎月作歌して、日々の生活の中のささやかな出来事や人生の機微をお詠みください。

- 一月 夢 二月 道
- 三月 山 四月 師
- 五月 牛 六月 坂
- 七月 根 八月 風
- 九月 みかん 十月 旅
- 十一月 種 十二月 書

## ■ 令和五年六月 兼題「虫」

天

成人式も結婚式も覚えぬピンクの振袖虫干ししをり  
宮崎市 濱田真理子

地

一心に蟻行き交ふを眺めつる孫のまなざし輝きてをり  
寒川町 寺原 聖山

人

道の辺にはたと鳴きやむ虫の音に再び聴かむと暫したたずむ  
熊本市 松山 浩一

秀逸

生徒らが虫眼鏡を紙にかざしたり煙よあがれとじつと見つむる  
宮崎市 河野杏実果

虫の名を孫に問わる我が側で娘はサクサクとスマートフォン索く  
宮崎市 松浦 伸子

佳作

虫食ひになつてをねらば取り出だし身につけたさや若き日の服  
宮崎市 堀越 照代

子や孫とクワガタ捜す樺の森樹液の光る一樹に声あく  
宮崎市 黒木和貴子

新聞の活字ばやけて虫眼鏡眼科検査は白内障と  
宮崎市 梅崎 辰貴

## ■ 令和五年七月 兼題「雨」

天

俄か雨に急ぎて傘をさしやりぬ牡丹の花のひとつ紅  
宮崎市 黒木和貴子

地

四年振り歌会開くに雨予報梅雨の晴間となるを祈れり  
宮崎市 須田 明典

人

雨晴れて今日は乾くかドクダミ草籠に干したり結わえ干したり  
宮崎市 和田 洋子

秀逸

手術日はあしたの午後と告げられて強き雨音聞きつつ眠る  
倉敷市 萩原 節子

空を睨め雨天中止とならざるを願ひて向かふスタジアムへと  
文京区 遠藤 玲奈

佳作

にわか腰痛に伏して干し物をはがゆく見つつ娘の帰り待つ  
小林市 永友 チエ

五月雨のふりつづく朝うから等と早苗植多たりしとど濡れつつ  
宮崎市 黒木 和子

線状の降水帯のあらはるるしとしと梅雨のあのころと違ひ  
宮崎市 本部 雅裕

## ■ 令和五年八月 兼題「魚」

天

帰省ごと母の作りし鰹漬け今はその味妻の受け継ぐ  
宮崎市 本部 雅裕

地

満面の笑顔で黒ダイぶらさげる雑誌に載る息子今脳梗塞  
宮崎市 鈴木クニ子

人

日に一つは料理をつくる今日は妻の買ひきし鯛にて鯛飯つくる  
宮崎市 甲斐嘉一郎

秀逸

弁当の魚焼き居る妻の背の齡重ねて小さくも見ゆる  
宮崎市 須田 明典

威勢良きしはがれ声に誘はれて鮮魚売り場に人らとむらがる  
日南市 黒岩 昭彦

佳作

今一番食べたき魚を問ふ妻にそれは鰻と即答へたり  
宮崎市 黒木 雅裕

神池の鯉とびはねる音のして参道歩く梅雨明けの朝  
宮崎市 出光 弘忠

まな板に翁の釣りこし大イサキ日向の海のにほひ運びく  
宮崎市 黒木和貴子

■令和五年九月 兼題「盆」

天  
迎え火を二人で焚いた夕暮れは今年もさびしい盆となりたり  
西都市 牧 忍

地  
精霊棚設へ了へて写真撮り来年は頼むと子に悟しをり  
宮崎市 須田 明典

人  
好物を思い出すまま作りおり帰りに父母の盆の膳供えに  
宮崎市 松浦 伸子

秀逸  
迎え火を焚いていた祖父も幾度目の盆になったろう俺が分かるかい  
宮崎市 小玉幸一朗

お盆にも二人して病む身であればすまぬすまぬと先祖に詫びる  
宮崎市 松久 寅雄

佳作  
父母逝きて久しき故郷の盆に集ふはらから五人ともに老いたり  
宮崎市 鐘ヶ江和貴

この夏も線香くゆる暮れ方に盆提灯の収納寂し  
宮崎市 河野 公俊

お盆にはお供えをする四つ組で母のせしごと白和や煮付け  
宮崎市 和田 洋子

■令和五年十月 兼題「彼岸・秋分」

天  
この釘を打ちてしまへばもふ父は彼岸へゆけり石にぎりしむ  
豊島区 野田 香織

地  
先生の御快癒祈り舞仕ふ秋の最中の満願祭の日  
宮崎市 松元 由菜

人  
秋の日に祖父は手練れの技を以ちて吾の車を塗り替多呉れり  
宮崎市 河野杏実果

秀逸  
七十路の此岸の我の間ひたきは彼岸の大人の如何に在りやと  
宮崎市 本部 雅裕

死語となる「暑さ寒さも」彼岸まで今は怯える熱中症に  
南九州市 赤坂よし子

佳作  
貧しかりし戦後のくらし語りつつ嫁と彼岸のおはぎを丸む  
宮崎市 黒木和貴子

仏壇に帰省の子らの最中菓子彼岸の今宵蠟の灯を継ぐ  
宮崎市 和田 洋子

■令和五年十一月 兼題「実」

天  
秋晴れに飛びゆく一機見上げたり孫と歩きし実り田の道  
宮崎市 濱田真理子

地  
沈黙の後「実力不足です」と絞り出したる敗戦投手  
文京区 遠藤 玲奈

人  
思はざる病長びき持ち畑に生りし粟の実取りに行けざり  
宮崎市 甲斐嘉一郎

秀逸  
秋晴れの霊峰高千穂仰ぎつつ実りし稲を刈るぞうれしき  
宮崎市 黒木 雅裕

松ぼっくり拾ひに行きぬ妻と子は学校教材に明日使ふと云ふ  
宮崎市 出光 弘忠

佳作  
郁子の実の色付く頃かひさびさに帰る故里すでに父母亡く  
宮崎市 黒木和貴子

隣家の柿の実あまた熟しをり賜ひし姫の逝きて久しき  
宮崎市 小松 京子

木の実踏み暮れゆく参道に我は待つ御幸終えし御神の帰宮  
宮崎市 松浦 伸子

◆ 功績表彰

【神宮大宮司表彰】

神宮大麻頒布優良奉仕者  
宮崎神宮権宮司 河野 公俊

【神社庁表彰】

神道の昂揚に特に功績顕著な者  
宮崎神宮崇敬者 押川 一好

両名には令和五年度宮崎県神社庁総会にて、表彰の栄に浴されました。

殊に押川氏は、旧正月十四日斎行の当宮撰社皇宮神社「破魔矢祭」において、平成十四年より検分所役として奉仕され、今日まで秘祭・特殊神事の維持継承に多大なる貢献をいただいてをり、当宮よりご推薦申し上げます。

心からお慶び申し上げますとともに、今後益々のご隆昌をご祈念申し上げます。

◆ 職員動向

令和五年七月から  
令和五年十二月まで

【本庁辞令】

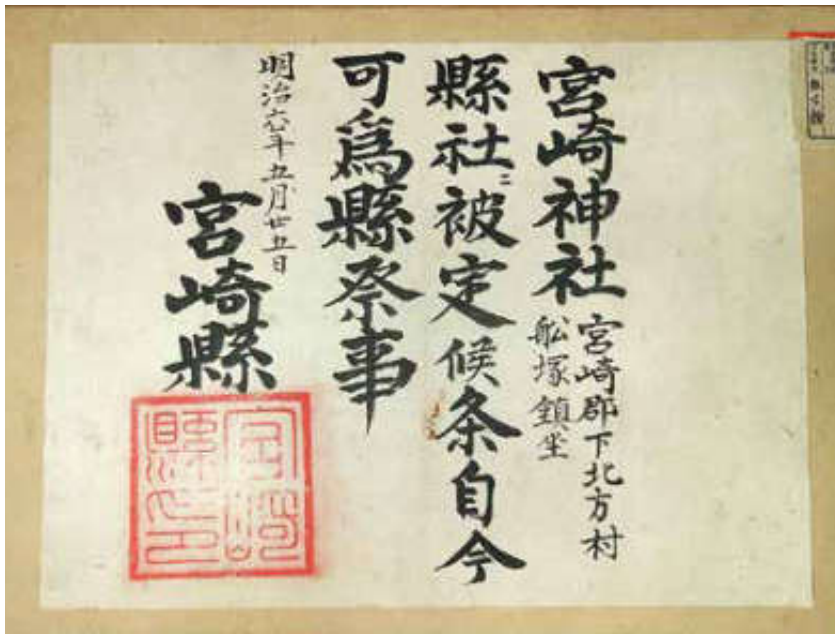
宮崎神宮欄宜 日高 憲司  
神職身分二級上とする  
(令和五年九月十日)

【社内辞令】

権欄宜 馬乗園貴稔  
鎮西大社諏訪神社への出向を命ずる  
期間 令和五年八月十五日迄  
(令和五年七月十五日)

## 宮崎県設置と宮崎神宮

宮崎の大宮柱動きなく立榮えなむときはにかきはに



県からの通達書。社格制度制定より2年目のことで、社格未定のまま明治6年に至ったと思はれます。

宮崎の名の由来は、神武天皇の高千穂宮跡と伝へられる皇宮屋、または奈古神社の前に広がる地としての宮前からの転訛かといはれます。

最初に宮崎県が設置されたのは明治六年一月十五日のことで、当宮は同年五月二十五日に旧称神武天皇社を宮崎神社とご改称され、翌年宮崎県は県社に指定しました。

県社とは、明治政府によって定められた近代社格制度において、神社の格を大きく官社と諸社に分けたうちの諸社の最上位に位置し、府（府社）もしくは県が崇敬する神社のことで、当時現宮崎市では江田神社、生目神社、愛宕神社がご列格されました。

その後、県民は更に高い社格を要望し、明治八年国幣中社にご列格、明治十一年宮崎宮へご改称されました。さらに宮崎県再配置の明治十六年、永友宗年宮司は官幣大社被列を出願し、明治十八年四月、県民の願望であった官幣大社にご列格されました。

当宮社名に宮崎の名を冠し、県の象徴的な神社として位置づけ、日本開国創業の神武天皇の故地「宮崎」の名を全国に発信しやうとした先人達の思ひが窺ひ知れます。

## 置県一四〇年

宮崎宮大祭協賛会は、現ご社殿ご造営竣工の明治四十年、日向国を表明すべき徽章を定むるべく懸賞募集を行いました。

応募は六十八名、一一八個の図案が寄せられ、審査の結果、日向の二文字にして中央の円環は日字を表明し、周囲は向なる文字を組織し、互に日に相向はしめたるものとして、淵江寛氏の図案が当選し、後に明治四十五年一月十四日に宮崎県章にも定められました。



令和五年は、宮崎県が明治十六年（一八八三年）に現在の県域をもつて新しい歴史を歩み始めてから一四〇年の記念すべき年でした。県の歩みとともにあった当宮が、未永く県民の心の拠り所たる「神武さま」としてありつづけ、その上に我が宮崎県が益々発展されますることを願ってやみません。

美正集

Vol.162

紀元 2684 年 令和 6 年 新春号

発行 宮崎神宮社務所 宮崎市神宮 2 丁目 4 番 1 号 電話 0985(27)4004 FAX0985(27)4030 ©編集 養正編集室 ©印刷所 愛文社印刷(株)

<https://miyazakijingu.or.jp/>